（様式３）

会議の開催結果について

1　会議名	第７回　河内長野市歴史文化基本構想等策定委員会
2　開催日時	平成２８年１１月１８日（金）１４ 時から
3　開催場所	市役所７階　行政委員会室
4　会議の概要	◎案件 「本市の歴史文化遺産保存活用の現状と課題」 「歴史文化遺産保存活用の事業概要」
5　公開・非公開の別（理由）	公開
6　傍聴人数	０人
7　問い合わせ先	（担当課名）生涯学習部　ふるさと文化財課 （内線７４９）
8　その他	特になし

＊同一の会議が１週間以内に複数回開催された場合は、まとめて記入できるものとする。

第７回河内長野市歴史文化基本構想等策定委員会議事録

日　　　　時	：	平成２８年１１月１８日（金）午後２時から午後４時
場　　　　所	：	河内長野市役所　７階　行政委員会室
出　席　委　員	：	櫻井　敏雄 委員長
		樽野　博幸 副委員長
		長田　寛康 委員
		小栗栖　健治 委員
		橋寺　知子 委員
		佐久間　康富 委員
		上田　霊宣 委員
		鵜飼　武　委員
		田中　伸之 委員
		緒方　博　委員
		太口　智裕 委員
		山田　耕司 委員
		島田　俊彦 委員
出席オブザーバー	：	地村　邦夫 大阪府教育庁文化財保護課
		神谷　悠美 大阪府教育庁文化財保護課
事務局側出席者	：	橋本　亨 河内長野市教育委員会生涯学習部長
		井上　剛一 生涯学習部ふるさと文化財課長
		ふるさと文化財課太田係長・細木副主査
案　　　　件	：	「本市の歴史文化遺産保存活用の現状と課題」
		「歴史文化遺産保存活用の事業概要」

〈部長挨拶〉
〈委員長挨拶〉

【開会】

説明１
〈事務局説明〉「本市の歴史文化遺産保存活用の現状と課題」について
櫻井委員長：PDCA サイクルについて説明願う。
太田係長：頭文字Ｐ「プラン」、Ｄ「ドゥ」、Ｃ「チェック」、Ａ「アクション」のことである。

計画して実行し、チェックを行い、それを次の実行に活かしていくという意味である。第５次総合計画の進行管理もこのPDCAに基づいて進めている。
長田委員：市民の中で関心のある人はいいが、８～９割の人は目先の生活に手いっぱいで関心が向いていない。いかに市民に計画を周知し、愛着をもってもらうかが施策のポイントである。P9（２）部分の「点としての文化財の活用から面としての活用」とあるが、歴史文化基本構想で出てくる５つの関連遺産群を、地図ソフトに落とし込み、関連遺産群ごとに色付けし、５地区を重ねあわせると、レイヤーとしての文化財マップができる。おそらくは人口密度の高い場所の大部分はカバーでき、全域でみても３割はカバーしたものができると思う。自分が住んでいる地域の文化遺産が指定されると意識が高まり、文化的な価値があるとの認識につながるため、５つの文化遺産としてなんらかの指定登録ができるようにならないか？
太田係長：指定とは指定文化財の枠ではなく、新たに制度をつくるか、市登録といった比較的緩やかなもので考える。
長田委員：かたちあるものとして、制度としてあるといい。
太田係長：後の制度設計の部分で検討していきたい。
鵜飼委員：天見地区は過疎化が進み、小規模特認校として市内全域を小学校区としている。毎年、テクテクテーリングというイベントを開催し児童に来てもらえるよう地域のPRをしている。また、地域で文化遺産を管理する場合、強制ではないが、地域住民で実施せざるを得ない状態である。市の補助で防犯設備を設置したが、常時一般公開するまでには至っていない。文化遺産の保全を通じて、地域の絆を深めていきたい。
櫻井委員長：制度設計をうまく組み立てるためにも、気づいた点や制度に盛り込んだ方がいい点など積極的な発言をお願いする。
橋寺委員：今指定されているものは中世のものは多いが、新しいものは少ない。今ある資源についてはよく調べられているが、新しいものについては調査も手薄であるため、まだ注目されていないものも沢山あるはずである。近代とは限らないが、比較的近いものに目を向けると、身近に感じられ、関心を起こすものがあるのではないか。
太田係長：ご発言の点も「現状と課題」に入れるようにする。

説明２
〈事務局説明〉「歴史文化遺産保存活用の事業概要」について
佐久間委員：歴史文化基本構想とも多分に関係して、今まで議論されてきたことが、整理されている。分野ごとに分かり易く書かれているが、分野を総合した内容を各分野の前に記載すると、奥行きのでる内容になるのではないか。
櫻井委員長：防災、整備と個別に分かれているが、群として相互関係をまとめてはどうか。
田中委員：市内への観光客を増やすとあるが、具体的な客層などターゲットは掴んでいるのか？観光業者に聞き取り、どういった人が興味をもっているのか調査をするのも一つの

方法である。羽曳野市の例をとると、関西国際空港にぶどう狩りの英語版パンフレットを置いたこと等で、外国人観光客の増加につながったという事例がある。文化財だけではなく、他分野とも絡めていくと、点ではなく面としての観光が実現するのではないか。

太口委員：市の取組みを補足すると、観光業者に聞き取りを行い、市内・市外のニーズ調査を実施している。文化財を観に来る客層としては、比較的高齢者が多い印象だが、あくまで印象であって潜在的にはわからない。現在、文化財や自然を活用した観光振興を含めた「観光振興計画」を策定中である。羽曳野市の事例を受けて、４カ国語のパンフレットを作成し、難波の観光案内所に設置している。今後は関西国際空港へも設置予定である。

小栗栖委員：事業概要は非常にコンパクトにまとまっているが、事業量としてはかなり多いはずである。一気にすべてを動かすことは容易ではないので、今後具体策を決めていく際には、段階的に動かす必要がある。

太田係長：今あるものの延長線上にある部分と、これからやっていかなければならない部分があり、それらを制度設計でうまくまとめる必要がある。

地村補佐：１と２の間に少し隙間があるように感じる。様々な調査研究の成果がどう反映されていくのか、１と２の間に別立ての章をつくる必要はないが、書き足しを行うことで、１と２のつながりが出てくる。また、計画が出来上がった際は、市民が手にとれるようなかたちにもっていくのか？

太田係長：印刷物やインターネットでの公開を検討中である。

地村補佐：コンサルタントに委託している自治体もある。一般の人が見た場合、歴史文化基本構想を見ないとわからない用語や補足説明が必要になる部分がでてくるため、公開の仕方には工夫が必要である。また、無形文化財については、担い手があってはじめて成立するものである。指定件数も少ないので、文章には盛り込まれていないが、今後これを増やしていく取り組みについての記載が必要ではないか。指定件数の少ない文化財について、調査研究を進めていくとバランスの良い活用計画になる。

樽野副委員長：P7 の上から２行目「地域に愛着と～」部分に大切なことが書かれている。大半の人が関心をもっていない中で、愛着をもってもらうためには、人づくりを進めていく必要がある。調査研究から普及という流れが主流だが、これまで行ってきた調査は行政と行政の関係者が主体となり調査研究を行ってきた。本来であればそこに住んでいる人達が取り組めるような調査にすれば意識が高まるはずである。自然分野では調査をしないことには進まないということもあり、とにかく関心をもった住民と一緒にやってもらっている。自然分野と文化財分野では一律に扱えないかもしれないが、もっと幅広い人が調査に関われるようにすると人づくりにつながるのではないか。

太田係長：自然分野でのやり方を参考にして進めていきたい。

上田委員：計画を策定しただけで、終わってしまわないように、計画に基づいた取り組みを継続的にしっかり実施してほしい。調査研究についても、どこをどうするのかイメージがわくように伝えてもらえればと思う。京都の文化財の修理業者では若い人が多い。河内

長野でも、調査研究を担える人材を地元でまかなえればいいのだが。
緒方委員：地域づくりでは、歴史をテーマに取り組む場合、まずは知ることから始め、次にステップアップするためには、ある程度の覚悟を持って、何か取り組みを提案していく必要がある。人づくりという側面でも効果的な取り組みを入れてほしい。
櫻井委員長：目次（素案）の１章２章が今回の検討項目だが、概要が短すぎるように思う。ここでの記載内容が少ないと次の制度設計が膨大な量になってしまうので、もう少し膨らませて書いた方が良い。本当の概要にしてしまうと、後にうまくつながっていかない。また、文化財としての基本が守られた上での活用でなければならない点に注意してほしい。
島田委員：第５次総合計画では本市の目指す方向や現状の課題、各地域での取り組みなどが記載されているので、今後の議論の参考にしてほしい。
地村補佐：P5（２）の所有者・所有団体・保存継承団体の現状と課題について、公共機関や個人所有の課題が抜けている。個人所有については、日々の維持管理や相続、高齢化による担い手不足などの課題を書き足してはどうか。
櫻井委員長：日本人は個人旅行が少ないが、外国人は自分で情報を収集し予約をするので、羽曳野市の成功には筋があった。大阪府が大阪駅で各市のPRパンフレットを設置したらいいと思う。ただし、行った先に食事処やトイレなど最低限の施設がそろってない点が問題である。フランスでは地方に行っても個別のパンフレットが充実しており、情報量が多い。観光立国にするためには、それだけのお金をかける必要がある。各市町村が府へ要望してはどうか。
上田委員：延命寺では、よくお茶処や食事処がないのか問合せがある。
橋寺委員：講座等では現役世代の参加が少ないが、１９時を過ぎると現役世代の参加が増える傾向にある。年１回でも、ノー残業デーの夜に講座を実施するなど、時間時期に工夫して開催を行えば、違う世代がターゲットになってくる。
太田係長：先日、本市のふるさと文化財の森センターで宿泊体験を実施した。学校を通じてPRを行ったことにより、いつもと違う若い世代の方の参加が多かった。今後もPR方法や時間帯を工夫して、幅広い世代の方をターゲットにしていきたい。
佐久間委員：第５次総合計画と基本構想、活用計画の関係性は？
太田係長：第５次総合計画が上位の計画となり、５次総の方針を基に、矛盾のないように作成している。フローチャートも対応しており、５次総に基づいた実施計画となっている。

【その他】

【閉会】